

住みよい住宅「モデルハウス」

「ユニバーサルコーディネーターを目指そう」

人の立場に立って考える≫鋭い「洞察力」を持つ≫「知識」「技術」を味方にする

学校・教科紹介

高知市より 30km 程郊外にある、総合学科高等学校である。生徒の気質は穏やかで優しい。

対象学年

2年。授業「環境造形」は専門科目ではなく、生活コース（保育・福祉）生徒の選択する学校設定科目である。（24年度より造形演習に名称変更）教科書なし。

所要時間

20時間

コンセプト

住みよい環境を自分たちで考える。ユニバーサルデザインに基づいた独自の住宅デザインを考案する。

準備する道具・素材

30度カッター・カッター台・トレーシングペーパー・金属定規・スコヤ・5mm幅スチレンボード・カネダインボンド・色画用紙（モデルハウス内の家具用）

本課題までの流れ

- ① ユニバーサルデザイン・バリアフリーの実例、ノーマライゼーション意識などを学習。
- ② 紙のモビール作品を作り、カッターの扱いに慣れる
- ③ ケント紙で、幾何形体（立方体、三角柱、円柱、階段）を制作し、のりしろ、折り目の処理など立体作りに慣れる。
- ④ スチレンボードで立体を作り、素材に慣れる
- ⑤ 既成の住宅図面を模写して、パターンを覚える。

制作手順

- ① 利用目的を考え、家のコンセプトを考える
- ② 制作する住宅の図面を1/100サイズで引く（家の大きさによって変更あり）
- ③ 図面を制作する模型の実物大に拡大
- ④ 図面にあわせてスチレンボードをカット。組み立て。
- ⑤ 時間があれば動線を考えて家具を入れる

ユニバーサルデザインとバリアフリーの共存

まずはユニバーサル（全員が使いやすい）を考える。対応しきれない物をバリアフリー（専用品）にする。

基本的には、ハード（家）にバリアフリーを持ってくる必要はない。ソフト（家具・自助具）で追加すれば十分である。必要なのは動線や、配置。

コメント

担当教師にとっても初めて行う分野であり、これまでモデルハウス制作の経験がなく、介護福祉関係生徒の課題ということで、試行錯誤の末このような作品になった。生徒もユニバーサルを意識した住宅モデルを考え、最初は廊下の幅を広く、無段差を意識するなど図面を制作していたが、制作が具体的になるにつれ、実際の住宅間取りなどを見て作ることが多く、多くが単なる住宅モデル作りになっていってしまった。良い作品見本も近くなって、教員と生徒の思考錯誤の繰り返しの課題となった。

より本物のモデルハウスに近くなるようにケントボードは白で統一し、安いものを買って求めた。スチレンボンドではなく、カネダインで代用した。ドアや窓は時間が足りず付けることができなかつたし、屋外から室内への移動がスムーズのように考えたかったが、それもうやむやになってしまった。建築デザイン専門の生徒ではないので、あまりこの課題ばかりつめるわけにもいかないが、翌年の本年度はもっとユニバーサルデザインに重点を置き、住宅デザインに選択を狭めず、店舗や公共施設など、外から見たデザインを重視したものなど実務と美しさを兼ねたデザインを薦めていきたい。願わくば、これからじょじょにクオリティの高いものにしていきたい。環境デザイン、建築デザインに造詣の深い先生方、または住宅模型を授業で制作されている先生にご指導頂けたら幸いである。

《生徒作品例》

